

令和 7 年度

友好都市提携 4 5 周年記念  
鄭州市友好訪問・行政視察報告書



令和 7 年 7 月 2 4 日（木）～ 7 月 2 6 日（土）

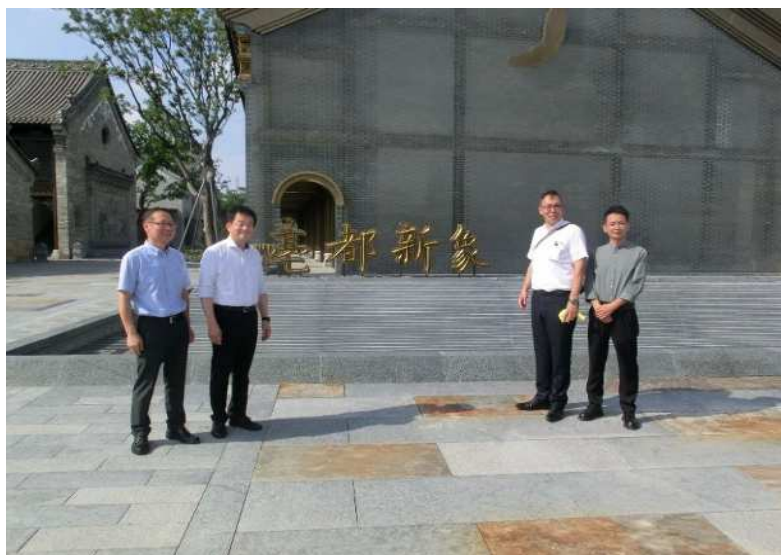
さいたま市議会

## 目 次

|   |                        |    |
|---|------------------------|----|
| 1 | はじめに                   | 1  |
| 2 | 訪問・視察日程                | 2  |
| 3 | 派遣議員名簿                 | 2  |
| 4 | 鄭州市友好訪問・行政視察概要         |    |
| ◆ | 鄭州市概要                  | 3  |
| ◆ | 鄭州大象陶瓷博物館              | 4  |
| ◆ | 高新区智慧城市実験場（スマートシティ）    | 5  |
| ◆ | BYD企業ミュージアム            | 6  |
| ◆ | 鄭州地下鉄                  | 7  |
| ◆ | 東城垣遺跡博物館               | 8  |
| ◆ | 旧市街（管城区豪都新象・阜民里街区）     | 9  |
| ◆ | 鄭州植物園（植樹）及び代表者会見（表敬訪問） | 11 |
| ◆ | レセプション                 | 13 |

## 1 はじめに

令和7年7月24日（木）から26日（土）までの3日間の日程で、本市の友好都市である中華人民共和国・鄭州市を訪問しました。



今回の議員派遣は、友好都市提携45周年を迎える鄭州市を訪問し、両市の友好親善を一層深め、更なる交流促進を目指すとともに、各種行政に関する視察・調査研究を行い、市政の発展に寄与することを目的として実施しました。

限られた日程の中、鄭州大象陶瓷博物館をはじめ、高新区智慧城市実験場（スマートシティ）、BYD企業ミュージアム、鄭州地下鉄、東城垣遺跡博物館、旧市街を訪問した後、鄭州市主催による鄭州植物園での記念樹の植樹、代表者会見（表敬訪問）及びレセプションにも参加しました。

市内ホテルで開催された代表者会見（表敬訪問）及びレセプションでは、両市長をはじめとした関係者が同席する中、今後の更なる友好親善について確認されました。さらに関係者との懇談が行われ、友好親善の目的を果たす、大変実りある時間を過ごすことができました。

各行程における訪問先で、市関係者の皆様と有益な情報交換ができたことは、今後の市政の発展に大いに寄与するものであり、本視察で得た知識や経験を今後の議会活動に生かし、市政発展に一層努力することを改めて決意する次第であります。

今回の訪問に当たり、ご尽力いただいた関係者の皆様にこの場をお借りし感謝申し上げます。

## 2 訪問・視察日程

令和7年7月24日（木）～7月26日（土）

| 月 日          | 発着地・滞在地                            | 交通機関           | 訪問先・視察先など                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------------|------------------------------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月24日<br>（木） | 成田空港発<br>鄭州空港着<br>鄭州空港発<br>《鄭州市内泊》 | 航空機<br><br>専用車 |                                                                                                                                                                                                                                             |
| 7月25日<br>（金） | 鄭州市<br>《鄭州市内泊》                     | 専用車            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・鄭州大象陶瓷博物館</li> <li>・高新区智慧城市実験場（スマートシティ）</li> <li>・BYD企業ミュージアム</li> <li>・鄭州地下鉄</li> <li>・東城垣遺跡博物館</li> <li>・旧市街（管城区豪都新象・阜民里街区）</li> <li>・鄭州植物園（植樹）</li> <li>・代表者会見（表敬訪問）</li> <li>・レセプション</li> </ul> |
| 7月26日<br>（土） | 鄭州市発<br>鄭州空港着<br>鄭州空港発<br>成田空港着    | 専用車<br><br>航空機 |                                                                                                                                                                                                                                             |

## 3 派遣議員名簿



議長 伊藤 仕

（随行 議会局議事調査部参事兼議事課長  
中村 哲也）

## 4 鄭州市友好訪問・行政視察概要

### ◆鄭州市概要

河南省の省都である鄭州市は、5市1県と6つの行政区を持ち、総面積約7,500平方キロメートル、総人口約1,300万人を有する、長い歴史と急速な都市化を両立してきた都市です。

穀倉地帯の中心拠点として古くから交通と商業の要衝であり、近年では自動車産業、電子関連産業、食品産業、繊維産業などの発展により、新興工業都市としてもめざましい発展を遂げ、政治・経済・文化活動の中心都市となっています。

黄河の中下流域の南に位置する鄭州市は、中国でも有数の規模を誇る内陸都市であり、中国鉄道の要となる鄭州駅を中心に北京・西安など主要都市を結ぶ交通・物流の結節点として、本市と相通じる性格を有しています。

市域には新たな都市開発エリアが整備され、オフィス・商業・居住区を連結する近代的な街づくりがなされています。これらの開発エリアでは、公共交通のネットワーク拡充と環境配慮型の都市設計が組み合わされており、居住性と生産性の両立を目指す取組が進められています。



【高速道路から臨む市街地】

また、鄭州市は、黄河文明の発祥地であり、中国八大古都の一つとして、重要な遺跡が残る歴史深い街です。市内には大象陶瓷博物館をはじめとする文化施設があり、周辺には世界的観光資源として知られる名勝・史跡群が点在しています。これらの資源を活かし、観光と地域経済の連携を図る動きが盛んです。

鄭州市と本市は、旧浦和市市民訪問団が中国訪問を重ねる中で、市民及び市日中友好協会関係者より中国の都市との友好提携の機運が持ち上がり、中日友好協会より鄭州市が推薦され、両市市長の合意を経て、1981年（昭和56年）10月12日に友好都市提携の運びとなりました。それ以来、周年記念事業として訪問事業を実施するなど、訪問団の相互派遣を通じて相互理解と協力関係を深めています。



## ◆鄭州大象陶瓷博物館

鄭州大象陶瓷博物館は、中国有数の陶磁器産地である河南省の歴史と伝統を伝える重要な文化施設である。外壁には唐代の磁器がはめ込まれており、陶磁器博物館としての象徴的な佇まいを見せている。



視察では運営スタッフから、施設運営の詳細な説明を受けた。館内には古代から現代に至る陶磁器作品が幅広く展示されており、その多彩なコレクションは国内外で高く評価されている。また、本施設は「蔵品博物館の設立、学術博物館の強化、文明の継承、社会への奉仕」という目的を堅持し、一年中無料で一般公開しており、鄭州市内の小中学校の校外学習も行われているとのことであった。



本視察を通して、地域の歴史的資源の保護と次世代へ継承するための環境整備の重要性を改めて認識する機会とすることができた。

## ◆高新区智慧城市実験場（スマートシティ）



鄭州市高新区の智慧城市（スマートシティ）実験場を行政視察した。現地では、最新のＩＣＴ技術を駆使した都市管理システムが導入され、交通管理、防災、エネルギー効率化など多岐にわたる分野で効果的に運用されていることを確認した。特に注目したのは、ドローンや防犯カメラを活用した防災・防犯システムの実証実験であり、安全・安心な街づくりを支える重要な取組となっている。

関係者の説明を受けつつ、市内の交通データや環境モニタリング情報がリアルタイムで一元管理されている様子も確認した。こうした仕組みにより、市民からの意見や要望に迅速かつ的確に対応できる体制が整っており、行政と住民の連携強化にも寄与している。

また、高新区ではＡＩやビッグデータ解析を活用した予測モデルを導入しており、ハザード予測やリスク評価を通じて防災・減災対策に大きく貢献している点が非常に印象に残った。



今回の視察で得られた知見は、持続可能な都市を目指す本市にとっても、都市計画及びＩＣＴ施策推進分野において大いに参考になるものであった。今後、国内外の先進事例を積極的に取り入れ、市民サービス向上と持続可能な都市づくりを推進する一助としたい。

## ◆BYD企業ミュージアム

BYDは広東省深圳に本社を置く、EV（電気自動車）をはじめとするモビリティ関連事業を手がけるグローバル企業である。鄭州市にある本ミュージアムは、EV、再生可能エネルギー、スマートモビリティの歴史と現在の技術潮流を一堂に展示する施設である。

館内展示を通じて、同社のEV技術の変遷と将来ビジョンを確認した。展示は単に車両を並べるだけでなく、バッテリー技術や電力貯蔵ソリューション、ソーラーパネルと組み合わせたエネルギー供給モデル、さらには充電インフラの整備と運用の実例までを包括的に紹介する構成になっており、来館者の理解を深めるための工夫が凝らされている。



また、本ミュージアムは単なる製品展示場にとどまらず、展示を活用した市民や学校向けの教育プログラムも実施しており、教育拠点としても機能している。技術の背景や目的を明確に示す展示設計と、子どもから大人までが参加できる体験型プログラムは、本市が市民参加型のイベントなどを開催する際のモデルとなり得ると感じられた。





## ◆鄭州地下鉄

鄭州地下鉄は、中国河南省の省都である鄭州を走る都市鉄道ネットワークである。市の中心部と郊外を結び、交通渋滞の緩和や移動の円滑化に寄与しており、現在も更なる整備が進められている。



現地では、黄河南路駅 - 27 広場駅間を、実際の利用者と同様の動線を辿り、駅構内から車内、降車までの一連の流れを体験した。安全確保に向けた取組が特徴的で、改札を通る際には手荷物検査を行い、金属探知機を通過するといった厳重な防犯対策がとられている。

また、非常時の避難経路の案内や、利用者支援窓口なども整備されており、安全性や利便性の高い設計となっている。

鄭州地下鉄のような大規模な地下交通網は、利用者の安全に配慮した案内表示や動線設計が重要であることを改めて認識した。本市においても、鉄道を始めとした、公共交通機関における防犯への取組が今後ますます重要になるのではと感じた。



## ◆東城垣遺跡博物館

鄭州市は、黄河文明の発祥地として名高い歴史都市であり、市内の博物館では当時の生活様式や遺跡から出土した品々を見学できる。その中でも東城垣遺跡博物館は、実際の城壁遺構を覆うように建てられた施設である。当時の城壁は約 27 平方キロメートルに及ぶ規模を誇り、現在も約 7 キロメートルが残存しているという。実際の城壁の一部をそのまま保存・活用して博物館を建設するという発想は非常にユニークで、保存技術の高さに強い感銘を受けた。



館内では、古代から近代にかけて何度も再利用されてきた城壁の歴史を、多彩な展示と最先端の技術を駆使して学べるよう工夫されていた。具体的には、実物の城壁一面を大スクリーンとして用い、歴代王朝の興亡と城壁の成り立ちを鮮明で色彩豊かなプロジェクションマッピングで表現しており、訪問者は、城壁の変遷やその背景にある歴史的意義を視覚的に分かりやすく理解できるようになっていた。

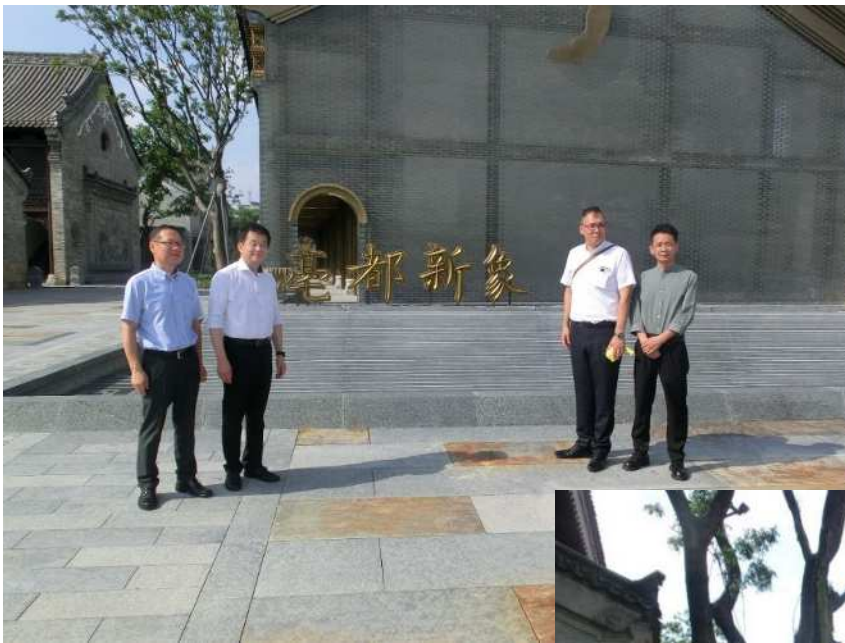
こうしたデジタル技術を活用した展示方法は、子どもから大人まで幅広い年齢層が楽しみながら地域の歴史を学ぶことが可能な仕組みとなっており、非常に有意義な取組であると感じた。

本市でも、市立博物館などの文化施設において、デジタル技術を活用した展示の工夫により、多様な年齢層に魅力をアピールできるのではないかと考える。



## ◆旧市街（管城区豪都新象・阜民里街区）

近年鄭州市の都市開発では、都市再生と文化・商業・観光を融合させた複合施設への注目が高まっている。殷王朝の都跡に位置する「旧市街—管城区豪都新象」は、歴史資源を戦略的に活用しつつ旧市街の再生を核に据え、伝統的景観を尊重しながら現代的な建築スタイルを取り入れた商業地区である。この地区は、周辺の殷王朝時代の遺跡との調和を重視し、伝統的な建築様式を残しつつ現代建築の技術や意匠を組み合わせることで、歴史的魅力と現代的な商業空間としての魅力を高める設計になっている。



敷地内は 76 の店舗と 15 のテーマの中庭で構成され、地元の特色ある店舗から国内で注目を集めるブランドまで多様な店舗が軒を連ねる。これにより、地域資源の発信力と市場競争力を同時に高めることを狙っているとの話を伺った。店舗構成はレストラン、服飾店、宿泊施設など業種が多岐にわたり、消費者の嗜好や購買行動を綿密に分析して空間に応じた配置を行い、購買意欲の向上を図っていると説明を受けた。

このように歴史・文化資源と現代の経済活動を融合させる取組は、長期的に地域の文化的魅力を守りながら経済を活性化する有効な事例であると感じた。実際、豪都新象では周辺観光施設の整備や旧市街再生を通じて、雇用機会の創出にもつながっているとのことであった。



さらに、別の旧市街である「阜民里街区」も訪問した。「阜民里街区」は、歴史的建造物の構造を生かして再整備され、コーヒーショップやブランド店など多様な店舗が入居している商業地区である。また、単なる商業地区にとどまらず、様々な美術展や文化活動を開催することにより、文化・芸術的な魅力を持つ地区としての側面も持ち合わせているとの説明を受けた。



本市にも大宮の氷川神社、与野公園、浦和のうなぎ、岩槻人形といった特色ある資源が存在している。これらを市民や観光客にとってより魅力あるブランドとして確立するには、豪都新象の事例のように消費者需要を十分に分析し、購買意欲の向上を図ることが重要であると感じた。

また、2か所の旧市街を視察し、資源同士の組み合わせ方についても示唆を得た。異なる資源を融合して新たな価値を生み出す取組は、本市でも十分に取り入れることが可能な試みであると認識した。



## ◆鄭州植物園（植樹）及び代表者会見（表敬訪問）

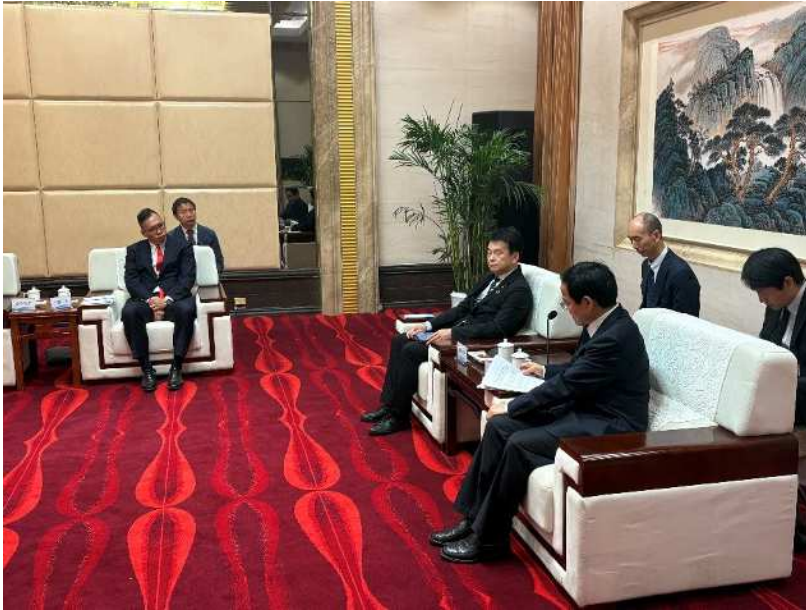
視察を終えた後、鄭州植物園へ移動し、両市のこれまでの交流の歴史と今後の友好親善の更なる深化を記念して、友情の木の植樹が行われた。



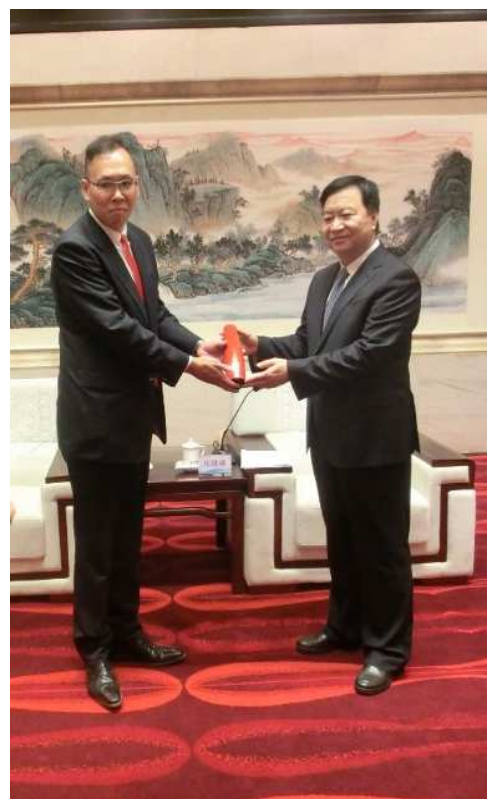


植樹の後は、会場を市内のホテルに移し、代表者会見が開催された。

会見においては、鄭州市長から「継続的な相互訪問を通じて両市の友好関係を深めたい。経済・観光分野での交流をさらに促進し、両市の市民交流を活性化していきたい」との発言があり、友好関係の深化に向けて相互に協力していく意向が示された。



次にさいたま市長が挨拶を行い、締めくくりとして両市の友好の象徴として記念品の交換が行われた。会見は終始和やかな雰囲気の中で進められ、双方は今後の友好親善の一層の深化に向けて協力関係を強化していくことで一致した。



## ◆レセプション

代表者会見後、同一ホテルにおいて鄭州市主催のレセプションが開催された。

莊建球市長をはじめ鄭州市側の関係者が多数出席し、両市のこれまでの友好関係から今後の更なる交流促進の方向性に至る幅広い話題が交わされ、終始和やかな雰囲気での懇談となった。レセプションを通じて、両市の協力に対する相互理解と信頼が一層深まったと実感しており、友好親善や相互理解という点でも非常に有意義な時間であったと感じている。





令和 7 年度　さいたま市議会  
友好都市提携 4 5 周年記念  
鄭州市友好訪問・行政視察  
報告書  
令和 7 年 9 月発行